事業所名　児童発達支援　ここ・みる

支援プログラム（児童発達支援）

作成日　2025 年　1 月　27 日

法人（事業所）理念		～子ども達の「今」と「これから」のために～　専門性の高い支援（療育・言語訓練）で子ども達の力と自信を育てます。		
支援方針		子ども一人ひとりの持てる力や思いを受け止め、次の成長へと導きます。嬉しい、楽しい、豊かな経験を通してすくすく、のびのびと力を育みます。		
営業時間		9 時　0 分から　17 時　30 分まで	送迎実施の有無	なし
		支　援　内　容		
本人支援	健康・生活	・来所時、保護者から健康状態の確認や職員による健康チェック（検温、視診）、や消毒を行い、健康状態の把握や病気の予防に努めています。 ・食事、排泄、衣類の着脱など基本的生活スキルの獲得を目指し、生活リズムや生活習慣を身につけられるよう支援します。 ・視覚支援によるスケジューリングで時間の構造化を図り、活動や遊び、個別支援などの内容によって場所を分け、わかりやすく過ごす環境を整えます。		
	運動・感覚	・療育活動の中で散歩（すくすくコースのみ）やアスレチック、やスキンシップ遊び、製作、手遊びなどを行い、基礎感覚や全身運動、手先の運動を通して、基本的な運動や動作の習得を目指します。 ・個別訓練では正しい構音の獲得のために口腔機能の運動、鉛筆の持ち方改善のための手指の運動等、就学に向けた課題を行います。 ・眼鏡や補聴器、人工内耳等、必要に応じて補助機器の活用を援助し、良い感覚刺激に触れる機会を確保します。		
	認知・行動	・視覚支援によるスケジューリング等、個々に合わせた環境調整を行うことで、活動の流れの理解や終わりの見通しを立てられるようになり、切り替える力を養いながら安心して活動に参加できるように支援します。 ・先生の話を聞くことが習慣化するよう、見る力、聞く力を養い意識づけます。 ・個別言語訓練では注意力や視覚記憶、構成力などを高めるため、パズルやひも通し、間違い探し、迷路など視覚認知課題を行います。 ・個々のこだわりについて把握し、やりとりのきっかけになるよう尊重します。こだわりが強すぎて日常生活に支障を来す場合は興味を広げ選択の幅が広がるように支援します。		
	言語 コミュニケーション	・言語聴覚士による言語評価を行い、一人ひとりに合わせたプログラムで言語・コミュニケーションに関する訓練を行っています。 ・身振り、指差し、絵カードのやりとり、文字、音声言語など子どもにとって有効なコミュニケーション手段を確立し、対人スキル向上、喜びの共有など楽しい経験に繋げます。 ・集団活動や個別訓練の中で、やりたいこと困っていることなどを上手に伝えられる方法を獲得し、要求やヘルプ表現を自発的に出せるよう支援します。		
	人間関係 社会性	・子ども一人ひとりとの信頼関係を築き、コミュニケーションを取りやすい環境を整えます。 ・あいさつする、自分の思いやの考えを話す、相手の話を聞く、ルールを守る、知らないことを尋ねる、要求を伝える、許可を求める、応じられないことは断る等、集団活動に必要な基本的スキルが身につくよう支援しています。また、先生や友達の対して感謝する、褒める、心配する、励ます等、先生がモデルとなったり子ども同士の良い関わりを褒めたりしながら、温かいやりとりができるよう支援します。		
家族支援		・月1回の時間を設け、日常生活での困り事や心配事、言語やコミュニケーションに関する具体的なアドバイスを行います。 ・ニーズに合わせた情報提供をその都度行います。	移行支援	サービス担当者会議に出席し、保護者や他事業所や園、学校等の機関と情報共有や連携を図ります。特に過ごし方のリズムが変わりやすい園・学校の行事期間では体力面、情緒面に配慮し丁寧に対応します。 ・進学の際、スムーズに移行できるよう就園、就学先や保護者に情報提供と支援を行います。
地域支援・地域連携		・関係する機関との連携を図り、必要に応じて情報共有を行います。具体的なな対応の共有や提案を行い、全体を通して子どもに良い支援ができるよう努めています。 ・自立支援協議会（そだつ部会）等への参加し、地域支援の状況や最新情報把握をし、支援の幅が広がるよう努めています。	職員の質の向上	・外部研修、内部研修を通してそれぞれの専門性を活かした支援が行えるよう常に知識や情報の引き出しを広げます。 ・法廷研修を実施します ・事業所内会議を行い保育士、言語聴覚士等、専門分野を療育に活かせるよう情報共有します。
主な行事等		・季節の行事（正月遊び、豆まき、ひな祭り、ハロウィン、クリスマスなど）・誕生会・四季の散策		